

病院看護師実地研修 実施報告会

令和8年3月18日

札幌豊平訪問看護ステーション

佐藤 美幸

当STでの病院看護師実地研修受入れ状況

- 令和6年 2件 : いずれも豊平区内の病院 1名ずつ
- 令和7年 2件 : 1件 中央区の大学病院 1名
1件 豊平区内の病院 2名

札幌柏葉会病院からの実習について

- 期間 令和7年10月20日（月）～10月22日（水）の3日間
- 時間 9：00～16：30
- 依頼内容
 - ① 在宅療養者を支えるサービスや多職種との連携について学んでもらいたい
 - ② 病院から訪問看護に繋がらないことがあり訪問看護で提供できる看護について理解が浅いので学んでほしい

実習受入れ時に心がけていること

- ウェルカムな雰囲気を作る
- 特定の居場所を準備する
- リラックスして実習できるように、声掛けする
- 訪問看護の良さが伝わればいいなという気持ちで接する
- 今後の連携を考え、互いの情報交換に努める

実習プログラム

日程	AM	PM
10月20日（月）	9:00 訪問① 11:00 事業所内オリエンテーション 同行訪問等の留意事項 訪問看護の仕組み	13:30～ 訪問② 15:00～ 訪問③
10月21日（火）	8:45 カンファレンス見学 10:30 訪問④	13:30～ 訪問⑤ 15:00～ 訪問⑥
10月22日（水）	9:30 訪問⑦ 11:00 訪問⑧	13:30～ 訪問⑨ 15:00 振り返り

事例の選定について考えたこと

- 2人の実習生がいたため、別々なケースを訪問
- あえて同じケースを同行または別日に訪問
- いろいろな病状、背景、利用年数の利用者を選択
- 受入れ良好な利用者を選定する

A実習生の訪問先 ▲ 1日目

- 訪問① 80代男性 独居 前頭側頭型認知症
体調管理 服薬管理 生活状況の確認
- 訪問② 80代女性 独居 アルツハイマー型認知症
体調管理 服薬管理 生活状況の確認
- 訪問③ 60代女性 高齢の母と二人暮らし
脳梗塞 統合失調症
体調管理 服薬管理 リハビリテーション

A実習生の訪問先 2日目

- 訪問④ 60代男性 施設入所 自閉症 膀胱癌 左腎癌
体調管理 ストマ管理
- 訪問⑤ 80代女性 夫と二人暮らし 多系統萎縮症
体調管理 気管カニューレ管理 胃ろう管理
排便管理 保清（入浴介助 洗髪）
- 訪問⑥ 50代女性 独居 短腸症候群 腎不全
体調管理 シャント観察 ストマ管理 入浴介助
- 訪問⑦ 80代男性 独居 認知症 2型糖尿病
体調管理 服薬管理

A実習生の訪問先 3日目

- 訪問⑧ 20代男性 母と同居 24時間ヘルパー支援
低酸素脳症後遺症 遷延型意識障害
体調管理 人工呼吸器管理 胃ろう管理 排便管理
- 訪問⑨ 80代女性 夫と二人暮らし マルフアン症候群
体調管理 入浴介助
- 訪問⑩ 90代男性 妻と二人暮らし 廃用症候群
体調管理 服薬管理 入浴介助
- 訪問⑪ 80代女性 夫と二人暮らし 認知症 廃用症候群
体調管理 服薬管理 入浴介助

B実習生の訪問先 1日目

- 訪問① 70代男性 妻と二人暮らし パーキンソン病
大脳皮質基底核変性症 外傷性頸髄損傷後遺症
体調管理 痰吸引管理 胃ろう管理 排便管理
- 訪問② 訪問⑩ 90代男性 妻と二人暮らし 廃用症候群
体調管理 服薬管理 入浴介助
- 訪問③ 80代女性 夫と二人暮らし 認知症 廃用症候群
体調管理 服薬管理 入浴介助
- 訪問④ 70代男性 高齢者住宅入居 高血圧症 糖尿病
体調管理 服薬管理 生活状況の確認

B実習生の訪問先 2日目

- 訪問⑤ 80代女性 24時間ヘルパー支援 ALS
体調管理 人工呼吸器管理 痰吸引管理 胃ろう管理
バルンカテーテル管理 排便管理 リハビリ
- 訪問⑥ 80代男性 日中独居 尿閉 慢性膀胱炎
体調管理 バルンカテーテル管理
- 訪問⑦ 20代男性 独居 病的肥満症 睡眠時無呼吸症候群
体調管理 栄養管理 リハビリ

B実習生の訪問先 3日目

- 訪問⑧ 20代男性 母と同居 24時間ヘルパー支援
低酸素脳症後遺症 遷延型意識障害
体調管理 人工呼吸器管理 胃ろう管理 排便管理
- 訪問⑨ 60代男性 二世帯住宅の二階に妻と二人暮らし
ALS 遷延型意識障害
体調管理 人工呼吸器管理 胃ろう管理 排便管理
- 訪問⑩ 80代男性 独居 認知症 2型糖尿病
体調管理 服薬管理

訪問に同行した職員の反応

- 非常に積極的に質問や利用者への声掛けがあり、意欲的であったので自分も刺激を受けた。
- 病院との違いを意識して実習に臨んでいた。
- 同じ看護師として看護を語れたことが嬉しかった。
- 在宅での療養では非常に個別性が大きいことを理解してもらった

振り返りを通して

- 3日間ではあったが、非常に大きい学びを得ていただいた。
- 病院と訪問看護で視点の違いはあるものの、一人一人にしっかり向き合う姿勢に看護の真髄を見た気がした、今後の看護に活かしたいという言動があり嬉しかった。
- 在宅での個別性の大きさを感じていただいた。
- いろいろな環境で療養をしている中での工夫や苦勞を知ってもらえた。

私たちが学んだこと・得たこと

- 病院での動き、退院支援の在り方の一端を学んだ
- 対象病院との連携向上につながった
- 看護技術の向上につながった
- 実習指導能力向上の機会となった
- 医療処置がないケースでも訪問看護の必要性を理解していただけた
- 訪問看護を始めた頃の気持ちを思い出し、さらに前向きになれた
- 訪問看護の良さを再認識した

今後の展望

- 今後も積極的に病院看護師実地研修を受けていきたい
- 地域の病院との連携に活かしていきたい
- 病院での情報を得る機会としたい